

モモジロコウモリ *Myotis macrodactylus* (Temminck)

【選定理由】

本種は極東に限局して生息するコウモリで、国内での分布は比較的広いが、県内では東三河山間部を中心とする2市2町で生息が認められているにすぎない。本種もキクガシラコウモリと同様の洞穴性コウモリであるが、良好な環境を保った森林への依存性がキクガシラコウモリやコキクガシラコウモリ以上に高いと考えられる。生物多様性の高い、良好な環境を保った森林の消滅や減少が本種の採餌場所や生活場所の不足をもたらし、個体群の維持を困難にさせていると考えられる。

【形態】

体重 5.5～11.0g、頭胴長 44～63mm、前腕長 34～41mm、尾長 32～45mm、脛骨長 15.2～17.0mm、後足長 (爪を含む) 10.0～11.8mm、耳介長 14.0～16.8mm、耳珠長 4.5～6.0mm、頭骨最大長 14.2～15.6mm。中型のコウモリで後足が長く、脛骨の半分以上の長さになる。背面の毛色は黒褐色で肛門から足にかけて白い毛がある。耳介と耳珠は細長く、頭骨は比較的細長い。歯式は I2/3, C1/1, P3/3, M3/3=38、脊柱式は C7+T10+L5～6+S5+Cd8～9=35～37 (宮尾, 1974)。

【分布の概要】

【県内の分布】

2009年までに尾張地区では犬山市の愛知用水に連絡する水路で確認され (子安・織田, 2009)、三河地区では豊田市 (原田, 1996a; 寺西, 2002)、設楽町 (原田, 1996b)、東栄町 (寺西, 2002)、新城市 (寺西, 2002) で確認されていた (子安・織田, 2009)。その後、豊田市でも広い分布が確認された (寺西, 2002; 子安ほか, 2016; 子安, 2018)。

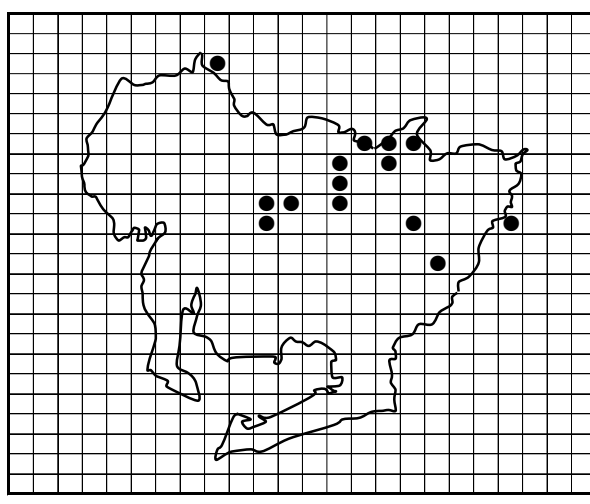
【国内の分布】

国後島、北海道、本州、四国、九州、佐渡島、隠岐、対馬、壱岐、福江島、種子島、奄美大島、徳之島に分布する (Sano, 2015)。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、サハリン、シベリア沿海地方 (Sano, 2015)。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

昼間は洞穴で休息し、数頭から数十頭の群をつくる。冬期には定まった冬眠洞で群を形成して冬眠する。日没後に出洞して採餌し、夜明け前に戻る。食物は小型の飛翔性昆虫で、森林やその周辺、河畔などで採餌する。森林では樹幹の間や樹冠部で採餌しているらしい。仔は生後 25～35 日で飛翔可能になり、生後 16 ヶ月で性成熟に達する。雌は初夏に特定の洞穴で 1 仔を産む。寿命は 6 年以上。

【現在の生息状況／減少の要因】

森林の大面積伐採や単一樹種の植林による生物多様性の減少が本種の良好な採食場所を減少させていると考えられる。さらに、生物多様性の保全に配慮しない河川改修、河畔周辺の開発、利用可能な洞穴の消滅といった要因で本種の生活可能な環境が減少していると考えられる。

【保全上の留意点】

本種の生息地周辺では、伐採、下刈り、農薬散布により生息環境が破壊されないよう十分な配慮が求められる。また、天然洞穴や人工洞穴の荒廃・攪乱を避け、これらに柵を設置する場合にはコウモリの出入りが可能な設備にしなければならない。

【特記事項】

出産・哺育コロニーが矢作川水系と豊川水系で確認されており、これらは愛知県内の個体群維持において重要な存在であると考えられる。

【引用文献】

原田猪津男, 1996a. ほ乳類. 稲武町史 -自然- 本文編, pp.508-513. 稲武町, 愛知県北設楽郡稲武町.
原田猪津男, 1996b. ほ乳類. 設楽町誌『自然編』「資料編」, pp.585-593. 設楽町, 愛知県北設楽郡設楽町.
子安和弘, 2018. 人家から奥山まで生息する哺乳類. 新修豊田市史 別編自然, pp.586-603. 愛知県豊田市, 豊田.
子安和弘・織田銃一, 2009. モモジロコウモリ. レッドデータブックあいち 2009 動物編, p.80. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
子安和弘・岡田慶範・小鹿登美・吉村文孝, 2016. 哺乳類. 豊田市生物調査報告書<分冊その3>, pp.337-367. 豊田市, 豊田.
宮尾嶺雄, 1974. 小翼手類の脊椎骨数. 日本哺乳類雑誌, 3: 30-31. 信州哺乳類研究会, 松本.
Sano, A. 2015. *Myotis macrodactylus* (Temminck, 1840). The Wild Mammals of Japan, 2nd ed., pp.107-108. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto.
寺西敏夫, 2002. 愛知県のコウモリ:アブラコウモリを除く(1998～2002,1). マンモス特別号, (4): 3-13.

(子安和弘・織田銃一)